

ROYAL YALE
ARMY AIR FORCE.

第2回結果発表！

☆戦況報告

ブラウン中将：貴様ら一体どこで油を売つてたんだ？上空の直掩がまるで無かつたお陰で、T. H. ラッシュは見事に沈んだぞ。おまけに護衛の艦隊も九割方沈んじました。生き残りの艦も、もう使いものにならんそうだ。向こうの無線を傍受したウチの情報部の話じゃ、連中、すっかりナメくさって戦果報告を平文電信でやってたそ�だぞ。第一連中、「もうこの戦争勝つた」なんぞとはざいていたようだし…それに引き換え、こっちの爆撃隊は口クな戦果も上げずに全滅と来た…泣くんじやない！大声上げて泣きたいのはこっちの方だ！

◎今回の作戦：ついでに傍受した敵の作戦は、イエール南部のヤーマス海岸への上陸、及びそれと同時に行なうヤーマス海岸一の工業地、バントリへの空挺降下だ。ここを押さえられたら、いくらアメリカがバックについても、この戦争の勝敗は決まるぞ。失業したくなかったらまともな戦果を上げろ。いいな！…制空隊は敵空挺部隊を攻撃。爆撃隊は上陸艦隊を攻撃する。護衛隊はうちの陸軍を応援する。全ての部隊に関して、第1波の部隊は第3波の攻撃が終わってから第4波としてもう一度出てもらう。同様に第2波は第5波として、第3波は第6波として出でもらわうからな。気い入れてかかれ、決して腐るな！

◎今回の編成

1st F I S …制空… 1 , 4波 1st F E S …護衛… 1 , 4波 1st F B S …爆撃… 1 , 4波
2nd F I S …制空… 2 , 5波 2nd F E S …護衛… 2 , 5波 2nd F B S …爆撃… 2 , 5波
3rd F I S …制空… 3 , 6波 3rd F E S …護衛… 3 , 6波 3rd F B S …爆撃… 3 , 6波

☆伝言板

・みなさん、初めまして。私、シャーリー・カリタスと言います。要件はね、Yale軍第1 F I S “devil’s killer” のメンバー募集なんです。必ず第1 F I S にいるのが条件よっ！気が向いたら私に会いに来てね。

シャーリー・カリタス准尉

中将：ウム、ハナから不調の我が軍にとって、こういうことは部隊の活性化につながるからな。准尉には2P、20zgをボーナスとして与えよう。

☆おりじなる・すとーりー

シャーリー・カリタスは帰つて來た。地獄の戦場から。

「ふつ。疲れたわ。慣れないGもきついし…でも、初戦果。うれしいわ」

その時、彼女はうしろから肩を叩かれた。

「お元気？ シャーリー」

昔、一緒に飛行訓練実習を受けた、ミレーヌ・ルルファであった。

「ええ、元気よ。そちらも元気そうね、ミレーヌ。結局あなたもここに來たわけね」

「私だけじゃないわ」とミレーヌ。

彼女の後には、同期の者たち4人がいた。爆撃王コンビ シャークとアルティシア、戦闘好きのチャンダー、そして、シャーリー、ミレーヌと大の仲良しのエルラ・クラリス。

「へへっ、みんな來たぜ」とチャンダー。

「つもる話もあるしな…」とこれはシャークだ。

「数日後、6人はそれぞれの愛機へと向かいつつあつた。

「私は“devil’s killer”的第1 F I S」とシャーリー。

「私は、この辺初めてだから第1 F E S、クラリス、あなたも来ない？」とミレーヌ。

「そうするわ」とクラリス

「俺たちは第1 F B Sだ」とこれはシャーク。

「俺は皆の後だ。第3 F I Sに行くぜ」とチャンダー。

彼らは、それぞれの場所へと旅立つていった。

(福岡県・片岡 義経)

作戦参加者の状態

プレイヤー名	乗機	愛称	キャラクター名	撃墜機数	爆破目標数	スコア	作戦参加数	階級	状態	機体	Sqn.
正宗 征士	P-40E	ライトニングJR.	T. B. マクガイア	8	0	12	1	少尉	生還	少破	1 I
	P-35A	スバルタニアンII	O. ポプラン	5	0	9	1	准尉	生還	無傷	2 I
	P-35A	ティー・オ・シロン	J. ミンツ	2	0	3	1	准尉	軽傷	中破	3 I
片岡 義経	P-40E	H. HAWK	シャーリー・カリタス	0	0	5	2	准尉	生還	無傷	1 I
	P-40E	THUNDER	チャンダー	2	0	3	1	准尉	軽傷	中破	3 I
	P-40E	F. SWEEPER	エルラ=クラリス	3	0	4	1	准尉	重傷	大破	1 E
	SplA	HOT SHOT	ミレース・ルルファ					中尉	戦死		1 E
	SqI	L. EAGLE	クリシュナ=シャーク 他1名					中尉	戦死		1 B
栗原 大輔	SplA	プレスト	デビット・マレー	3	0	5	2	准尉	生還	少破	3 I
	SplA	F. I. フライムズ	グレアム・リード					中尉	戦死		3 E
	P-40E	わらわしのアニー	ジェフ・ヤング					中尉	戦死		2 E
	P-40E	ショニー=鏡をとれ	ピリー・ガスリー					中尉	戦死		1 E
	SqI	スチールホーク	ジミー・スコット 他1名					中尉	戦死		3 B
古橋 道生	P-40E	FALCON 1号	M. ファーム	0	0	1	1	准尉	軽傷	少破	2 I
	P-40E	FALCON 2号	R. バタネン	2	0	3	1	准尉	生還	少破	2 I
	SplA	WINK 1号機	A. バルキリア	9	0	13	1	少尉	重傷	中破	2 I
	SplA	WINK 2号機	D. ラッシュ	10	0	14	1	少尉	重傷	中破	2 I
	SplA	WINK 3号機	S. アルフォンス	7	0	11	1	少尉	重傷	中破	2 I
森田 鈴也	F2A	露雲無能之彦	鬼迷羅	0	0	3	2	准尉	生還	無傷	1 E
	P-40E	露雲無能之武	偶利翻	0	0	1	1	准尉	生還	無傷	1 E
杉浦 壽昭	P-40E	キディ	マクレイン=ライサー	2	0	3	1	准尉	生還	無傷	3 I
	SqI	B. W. I	ボール=グレイ 他1名					中尉	戦死		1 B
	SqI	B. W. II	S.H. ハートレー 他1名					中尉	戦死		3 B

失格者 1 名 (キャラクター名なし)

☆プレイヤーの声

『あの～お、1つとっても驚いたんですけども、イエール側の先回の参加者は5人ですか（う、そ、だ、ふ、（貴さん風に））こんなことで戦争になるのかよー！こーなると思ってイエール側に参加したんですけども、ちょっと驚きです。それからシステムについてクレームを一つ、この人数ですと（強制機種で比較）2倍以上（多分）の数のDog Fightのエキスペート“ゼロ”と、“バッファロー”が戦うということになるよーな気がします（勝負見えてるわこりや）。

機体の説明に総重量とか入れてもらえませんか。素人の私にはどれが装甲が厚そうかわからんのです。（愛知県・古橋道夫）

③：いやその…装甲については、あまり細かい資料がないのです。同じレベル内では値段の高いものがより頑丈だ、という風に見てくれても差し支えありませんよ。ハイ。

新型機登場

Now
Drawing ...

SBCヘルダイバー…米海軍の艦載急降下爆撃機。複葉機という古風な姿ながら、かなりの実力を秘めており、WWII初期でもまだ第一線任務についていた。
複座・103ジグリ・Gun12, 7mm × 1
MaxSpeed381km・Bomb310kg（レベル1・准尉）

なまう
どういんぐ...

ハリケーンII D…スピットファイアと双璧をなしたイギリス空軍の戦闘機。どちらかといふと低空での戦闘に強く、対地支援に使われ

ることが多かった。これはその中でも対地支援専門に武装と装甲を強化したタイプ。
単座・316ジグリ・Gun40mm×4
MaxSpeed550km・Bomb100kg（レベル2・大尉）

しばらく
お待ち下さい…

P-39Dエアラコブラ…37ミリ砲を搭載するため設計された機体。運動性はとても戦闘機とはいえる代物ではなく、米軍は大戦初期にレンド・リース機として放棄した。主な供与先であったソ連では、対地支援機として重宝していた。

単座・260ジグリ・Gun37mm×1+12.7mm×2+7.7mm×4・MaxSpeed592km・Bomb227kg
(レベル1・准尉)

機体の説明

今回はP-40です。

1924年以来、米陸軍戦闘機の主力機メーカーとして君臨してきたカーチス社が、全金属製低翼单葉形式の一番手として成功したホーク75型(P-36)を、液冷のアリソンV-1710系エンジンに換装して性能向上を図った後継機XP-40の試作契約を結んだのは1938年10月である。2段構えで同時に試作進行されたXP-37が排気タービン過給機装備だったのにたいし、XP-40は機械式過給機付きのオーソドックスな設計で、当初主冷却機は胴体中央部下面に装備していた。機首以外は基本的にホーク75と同じである。1938年10月に初飛行したXP-40は、予定した最高時速563キロを大きく下回った481キロしか出ず、ただちに主冷却機の位置を機首下面に移動してどうにか550キロをクリアーした。自社製XP-37、ホーク75R型のほか、ベルXP-39、ロッキードXP-38、セバスキーAP-4を加えて1939年1月に実施された戦闘機競合テストにおいて、最も実用化に近い機種に選定されたXP-40は、実用試験型YP-40を省略していきなり524機の量産機発注を得ることに成功した。

P-40はP-51などの影に隠れて、わが国ではあまり高い評価を受けていない機体であるが、WWIIの全期間を通じてアメリカのみならず連合諸国軍で大量に使われ、ヨーロッパと太平洋の両戦線で大活躍した戦闘機であった。また、機体構造は堅牢で、しかも量産性に優れた設計となっており、アメリカ陸軍の上記の動きも理解できる。またこのことが、その後のアメリカ戦闘機に大きな影響を与えたことは注目されるべきである。総生産数13738機という記録を打ち立てたことが、何よりの証拠であろう。これはP-47、P-51につづく米陸軍主力戦闘機第3の記録である。

カーチス社がP-40シリーズの最後を飾る高性能機として設計したのは、XP-40Q-2である。次期戦闘機の座を狙つたもので、エンジンはアリソンV-1710-121(離昇出力1425HP)を搭載していた。後部胴体を再設計してキャノピーを水滴型にし、主翼端を切り詰めるなどの努力をしたもので最大時速は679キロに止まり、当時量産に入っていたP-47、P-51にはかなはず、採用には至らなかった。

そしてこの失敗はP-40に固執したカーチス社の悲劇の始まりといえ、その後もヒット作を世に送り出せず、ジェット時代になってついに没落した。

結論として、性能的には二流の域を出なかったP-40だが、実用性・量産性に優れ、特に戦闘爆撃機としては高い実績を残した。米陸軍以外にもイギリス、フランス、オーストラリア、ソ連などでも使用されていた。